

社会科シラバス 中学歴史

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間 × 2 年 ※3 年次は週 3 時間	第 1・2 学年 第 3 学年 1 学期	中学社会歴史的分野(日本文教出版)
学習の到達目標	<p>(1) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた歴史的知識・読解力など情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。 (Science)</p> <p>(2) 異なる文化や価値観に対する理解と日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、それらを尊重しながら、日本に生活の基盤を置く者としての考えや価値観を世界に発信できる力を養い、現在世界で起きているさまざまな問題を解決するために多種多様な人びとと協調できる人間になる。(Global)</p> <p>(3) 歴史の学習活動を通じて、相手の立場に立って考える姿勢を磨くとともに、人文科学・社会科学の基礎的な知識を結びつけ、論理的に活用する能力を獲得し、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。 (Liberal Arts)</p>		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの 100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの 60%
- D : 未提出, 未実施 0%

2、学習内容及び評価方法

中学1年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月 5月 6月	<p>第2編 古代までの日本と世界</p> <p>第1部 人類の始まりと文明</p> <p>1 人類の出現</p> <p>2 古代文明の誕生</p> <p>3 中国の文明と東アジア世界</p> <p>4 ギリシャ・ローマの文明</p> <p>5 文明と宗教</p> <p>第2部 日本列島の人びとと国家の形成</p> <p>1 日本人のルーツと縄文時代</p> <p>2 稲作の広まりと弥生時代</p> <p>3 ヤマト王権と渡来人</p> <p>【朝貢・冊封とは何か】</p> <p>4 東アジアの統一国家</p> <p>5 聖徳太子と飛鳥文化</p> <p>6 律令国家の成立</p> <p>第3部 古代国家の展開</p> <p>1 奈良の都と人々の暮らし</p> <p>2 天平文化と聖武天皇</p> <p>3 平安京と桓武天皇</p> <p>4 摂関政治と国風文化</p>	<p>狩猟採集中心から農耕牧畜が始まることで、社会がどのように変化していくのか探る。</p> <p>また、その結果、どのような特色のある地域で文明が発展していくのか、分析する姿勢を身につける。</p> <p>現代政治とのつながりにおけるギリシャ・ローマや三大宗教の理解をすすめる。</p> <p>旧石器～縄文、弥生、古墳と、社会がどのように変化したのか、考古的な資料から読み取れることを、まとめて説明できるようになる。</p> <p>中国で成立した、律令を基礎とした強大な中央集権国家の成立が周辺の諸国にどのような影響を及ぼし、日本はどのような改革を進めて律令国家を作ったのかを学習し、理解していく。</p> <p>独自の律令制度がどのように運用され平安時代にかけて変質していくのかも考察する。</p> <p>平安時代にかけて、律令の変質とともに、摂関政治という新しい政治システムが採用される時代性を理解し、奈良時代の天平文化から平安期にかけて、文化がどのように変化していったのか体感する。</p>	<p>□人類の進化について、特徴的な語句を使って説明できる。</p> <p>□メソポタミア・エジプト・インドス文明の共通点と違いを説明できる。</p> <p>□中国の国家がどのような制度を導入し広大な領土を支配できたか説明できる。</p> <p>□ギリシャ・ローマの政治のしくみとその文化について説明できる。</p> <p>□三大宗教が広まった地域・おこした人物、教えについて説明できる。</p> <p>□旧石器時代と縄文時代の、生活の工夫や特色を、その違いも含めて説明できる。</p> <p>□縄文と弥生の生活や社会のあり方がどのように違うのか説明できる。</p> <p>□ヤマト王権がどのようにして勢力を拡大したのか、対外関係から説明できる。</p> <p>□中国の律令国家である隋や唐が周辺諸国にあたえた影響について説明できる。</p> <p>□蘇我氏や聖徳太子が行った政治の改革について、行った理由を説明できる。</p> <p>□大化改新から大宝律令制定にかけての中央集権化の動きについて説明できる。</p> <p>□税を中心に、朝廷の国家作りのねらいや当時の人々の生活について説明できる。</p> <p>□天平文化の特徴を「仏教」と「国際性」という視点から説明できる。</p> <p>□桓武天皇がおこなった政策の特徴について説明することができる。</p> <p>□国風文化発展の理由について、摂関政治の内容や外交の変化から説明できる。</p>

9 月 10 月 11 月	第3編 中世の日本と世界 第1部 古代から中世へ 1 武士の登場 2 院政と平氏政権 第2部 鎌倉幕府の成立 1 鎌倉幕府の政治 2 鎌倉時代の人々のくらし 3 鎌倉時代の文化と仏教 4 元の襲来と鎌倉幕府	中世の代表的存在である武士がどのように成長し、政治に影響を及ぼすようになったのかを学習し理解していく。 院政の成立から平氏政権の成立では達成できなかった課題を鎌倉幕府が実現していく経過や背景なども社会のしくみから考察する。 鎌倉時代に見られた社会・経済・文化における新しい傾向も武士の台頭という視点から理解する。 また、その鎌倉幕府がなぜ衰退し、室町幕府の成立に至ったのか、外交的な事件と内政における視点から理解する。	□武士がどのようにおこり、力をつけていったのか説明できる。 □平氏の政治について、貴族的な面と武士的な面から説明できる。 □鎌倉幕府が武士に指示された理由について説明できる。 □鎌倉時代の人々はどうのように生活し、社会はどう変化したのか説明できる。 □鎌倉時代の文化や仏教について古代との違いから説明できる。 □鎌倉幕府がおとろえた理由について説明できる。
	第3部 室町幕府と下剋上 1 南北朝の動乱と室町幕府 2 東アジアの交流と琉球王国の成立 3 産業の発展と都市と村 4 応仁の乱と戦国大名 5 室町時代の文化とその広がり	室町幕府のしくみについて、鎌倉幕府との比較を導入として分析し、その違いと支配の方法について学習する。 また、地域や民衆が活発化していく室町時代のダイナミックな動きを理解するとともに、そこから芽生えた文化や社会の特色についても知識の定着をはかる。	□室町幕府と鎌倉幕府のしくみの違いと、その理由について説明できる。 □室町期の日本と近隣諸国・地域がどのように交流していたのか説明できる。 □産業の発展と、村の自治や土一揆がどのように関係しているのか説明できる。 □「実力」などの言葉を使って戦国時代がどんな時代だったのか説明できる。 □室町時代の文化を担った人々はどうな人々だったのか説明できる。
	第4編 近世の日本と世界 第1部 中世から近世へ 1 イスラム教の世界とキリスト教の世界 2 つながれてゆく世界	新航路の開拓などをきっかけに世界が一体化していくなかで、その動きを体感しつつ、日本にどうつながっていくのか想像しながら学習する。	□イスラム教とキリスト教の世界がどのように影響し合っていくのか説明できる。 □一体化した世界が、それ以前の世界と比べてどう違うのか説明できる。
1 月 2 月	第4編 近世の日本と世界 第1部 中世から近世へ 3 ヨーロッパ人の来航と信長 4 秀吉による全国統一 5 秀吉の海外政策 6 安土桃山時代の文化 第2部 江戸幕府の成立と東アジア	一体化しつつある世界と日本列島のつながりの中で、日本社会がどのように大きく動いていくのか、織田信長や豊臣秀吉の動向をふまえながら学習し、理解していく。 ○江戸幕府の諸政策に着目して、260年にわたる江戸幕府の支配が確立した背景を理解する。	□鉄砲とキリスト教の伝来が日本にあたえた影響について説明できる。 □豊臣秀吉がどのような社会をつくらうとしたのか説明できる。 □朝鮮への侵略がもたらした影響について説明できる。 □安土桃山時代の文化の特徴と、生み出された理由が説明できる。 □安定的な支配を進めるために江戸幕府が行ったことについて説明できる。

1 全国支配のしくみ 2 朱印船貿易から鎖国へ 3 隣接地域との関係とアイヌ文化の成熟 4 江戸時代の百姓と町人	○朱印船貿易の推進から鎖国の開始まで、対外政策の転換した過程を、その理由を含めて、貿易・宗教・情報の視点に着目して考える。 ○鎖国下の日本の対外交流について整理して理解する。 ○江戸時代の社会の特色について、身分制を中心に理解する。	□江戸幕府がいわゆる鎖国政策を行った理由について説明できる。 □江戸時代の、隣り合う国や地域との関係について説明できる。 □江戸時代の身分ごとの役割について整理したうえで説明できる。
評価の観点及び内容		評価方法（具体例）
歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞		①：授業ノート提出・ワークシート提出・授業出席点(30%)
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞		②：定期試験(35%)
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞		③：定期試験(35%)

【観点別評価】

1、ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。

B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。

C：補充できていない空欄が存在する。

D：未提出

2、ワーク課題

課題内容	評価指標
農耕と文明の因果関係を想像しよう	A：文明の特徴がどのように生まれ、どのように影響を与えたのか、その文物を正しく理解しながら、因果関係について多面的に考察し、表現している。 B：因果関係への考察に努力が見られるが、その分量が不足しており、限られた視座に留まっている。 C：文明の特徴的な文物を誤って理解しているか、その院外関係の考察が不十分かつ分量が著しく少なく、考察の努力が読み取れない。 D：未提出
隣接地域の関係 (p130-133 の内容を読み	A：詳細な知識を絵図や表を用いてわかりやすく整理し、他者の理解を促進できるような適切な構成・表現をして作成できて

取り、ノートを作成する)	<p>いる。</p> <p>B：絵図や表が不適切であるか、教科書を丸写ししたような、創造性を感じられない構成・内容になっている。</p> <p>C：絵図や表が不適切であるか、必要な知識を教科書から読み取れていない、甚だ不十分な内容になっている。</p> <p>D：未提出</p>
江戸幕府のライバル政策 (p136)	<p>A：空欄を適切なことば・表現で補充できている。</p> <p>B：空欄補充に不適切なことば・表現が含まれている。</p> <p>C：補充していない空欄がある。</p> <p>D：未提出</p>

中学2年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月 5月 6月	<p>第4編 近世の日本と世界</p> <p>第三部 産業の発達と元禄文化</p> <p>1 産業の発達と都市</p> <p>2 江戸時代前期の文化・学問</p> <p>第四部 幕府政治の改革と農村の変化</p> <p>1 幕府政治の改革</p> <p>2 農村の変化と民衆の動き</p> <p>3 江戸時代後期の学問と文化</p>	<p>○諸産業の発達とともに交通網が整備され、都市としての形態が整っていったことを理解する。</p> <p>○元禄文化や学問の特色を理解するとともに、それらが発展した背景について、社会状況と関連づけながら理解する。</p> <p>○江戸幕府における政治改革の内容とともに、改革を行った背景と改革の影響を整理して理解する。</p> <p>○商品作物の栽培の広がりや、貨幣経済の浸透による社会変化を理解する。</p> <p>○百姓一揆や打ちこわしが増加した背景について、農村の変化や当時の社会状況を関連づけて理解する。</p> <p>○化政文化や新しい学問の特色を理解するとともに、それらが発展した背景について、社会状況と関連づけながら理解する。</p>	<p>・江戸時代の日本地域について、都市機能に着目しながら、社会状況を理解している。</p> <p>・元禄文化や学問の特色を理解している。</p> <p>・江戸時代の諸改革について、その背景、内容、影響を理解している。</p> <p>・江戸時代中期以降の社会変化や、それが民衆の生活や社会思想、政治にもたらした影響を理解している。</p>
	<p>第5編</p> <p>第一章 日本の近代化</p> <p>第一部 欧米の発展とアジアの植民地化</p> <p>1 産業革命</p> <p>2 王政から議会制へ</p> <p>3 アメリカの独立とフランス革命</p> <p>4 新興勢力の台頭</p> <p>5 ヨーロッパのアジア侵略</p>	<p>○イギリスで産業革命が起きた背景や経緯について理解するとともに、それによって起こった資本主義社会の成立や、社会問題の発生について、その影響とともに理解する。</p> <p>○ヨーロッパにおける政治体制の変化について、議会制の確立や啓蒙思想の発展の影響を含めて理解する。</p> <p>○アメリカの独立やフランス革命が、どんな社会的変革とつながっ</p>	<p>・産業革命の背景・内容・影響を理解する。</p> <p>・議会制とはなにか理解している。</p> <p>・啓蒙思想の内容や代表者を理解している。</p> <p>・アメリカ独立革命とフランス革命の理念を、「独立宣言」や「人権宣言」の内容を活用して説明できる。</p> <p>・南北戦争の背景と結果を説明できる。</p>

	<p>第二部 近世から近代へ</p> <p>1 ゆらぐ幕府の支配</p> <p>2 開国</p> <p>3 江戸幕府の滅亡</p>	<p>ているのかを理解する。</p> <p>○アメリカ・ロシア・ドイツが領土拡大を目指すまでの経緯を理解する。</p> <p>○国内外の変化とそれに対する幕府の対応、その結果と影響を理解する。</p> <p>○不平等条約が日本の社会や経済にもたらした影響を理解する。</p> <p>○倒幕に至るまでの経緯を理解する。</p>	<p>・ロシアの南下政策とはどのような政策か、説明できる。</p> <p>・ドイツがどのように国内政治を整えたのか説明できる。</p> <p>・天保の改革の失敗が幕府に対する人々の考えをどう変えたのか説明できる。</p> <p>・「日米修好通商条約」を説明できる。</p> <p>・幕府批判勢力の動きを説明できる。</p>
<p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<p>第5編</p> <p>第一章 日本の近代化</p> <p>第三部 近代国家へのあゆみ</p> <p>1 明治維新</p> <p>2 殖産興業と富国強兵</p> <p>3 文明開化の展開</p> <p>4 近代的な国際関係の形成</p> <p>5 領土の確定と隣接地域</p> <p>第四部 立憲制国家の成立</p> <p>1 士族の反乱と自由民権運動</p> <p>2 憲法をめぐる対立</p> <p>3 大日本帝国憲法の制定</p> <p>4 藩閥政府と民党</p> <p>第五部 日清・日露の戦争と東アジアの動き</p> <p>1 列強の動向とアジア</p> <p>2 朝鮮をめぐる対立</p> <p>3 朝鮮・満州を巡る日本とロシアの対立</p> <p>4 日本の朝鮮支配</p> <p>第六部 近代の日本の社会と文化</p> <p>1 日本の産業革命</p> <p>2 社会運動の発展と近代文化の形成</p> <p>第5編</p> <p>第二章 二度の世界大戦と日本</p>	<p>○明治維新で、日本の政治・人々の生活・社会・経済・文化などがどのように変わったのか、江戸時代の社会と比較して理解する。</p> <p>○明治新政府が明治維新で目指したものはなんだったのか、理解する。</p> <p>○日本地図を見ながら、当時の国境の変化を理解する。</p> <p>○なぜ自由民権運動が起こるにいたったのか、理解する。</p> <p>○憲法の制定と国会の開設を巡る諸勢力の考えを理解する。</p> <p>○アジアを巡る帝国主義国家、日本と清の動きを理解する。</p> <p>○日清戦争の影響と、アジアを巡る日本とロシアの動きを理解する。</p> <p>○日本による朝鮮支配の過程と中国の近代化の結果を理解する。</p> <p>○日本の産業革命の進展とこの時期の国民生活の変化を結びつけて考察する。</p> <p>○資本主義の発展は様々な影響をあたえ、労働運動や貧困と抑圧から解放を求める思想が登場したことを考え、表現する。</p> <p>○第一次世界大戦が起きた背景や原因、ロシア革命の動き、ヨーロッパにあたえた影響を理解する。</p>	<p>・「版籍奉還」と「廃藩置県」の違いを説明できる。</p> <p>・「地租改正」に対する民衆の反応を説明できる。</p> <p>・当時の日本の国境線を地図に引くことができる。</p> <p>・戊辰戦争の影響を説明する。</p> <p>・「明治 14 年の政変」や「秩父事件」がもたらした影響を整理する。</p> <p>・帝国主義国家の考えを、これまでの勉強から整理する。</p> <p>・下関条約の内容を説明できる。</p> <p>・ポーツマス条約の内容を説明できる。</p> <p>・朝鮮併合までの経緯と両国の関係を説明できる。</p> <p>・国家の支援を受けて、日本国内で軽工業、重工業が発展していく様子を表現できる。</p> <p>・産業革命の結果として、労働運動や社会運動が発展していったことを説明できる。</p> <p>・第 1 次世界大戦のきっかけとなるバルカン半島情勢やヨーロッパの勢力について説明できる。</p>

	<p>第一部 第一次世界大戦と戦後の世界</p> <p>1 第1次世界大戦</p> <p>2 日本の参戦と大戦景気</p> <p>3 大戦後の世界とアジアの民族運動</p>	<p>○第一次世界大戦に参戦した日本で経済が好景気をむかえたり、米騒動が起こったりしたことを理解する。</p> <p>○二十一か条の要求やシベリア出兵の意図をとらえて、第一次世界大戦が日本にあたえた影響を考える。</p> <p>○第一次世界大戦後に、国際平和や軍縮のための努力がなされたことを理解する。</p> <p>○アジアの民族運動や独立運動の流れを、第一次世界大戦と関連づけて考察する。</p>	<p>・第1次世界大戦とロシア革命の特徴を説明できる。</p> <p>・東アジア、特に日本における第1次世界大戦の影響を説明できる。</p> <p>・戦後の国際体制とアジアの民族独立運動の関連性を説明できる。</p> <p>・</p>
1月 2月	<p>第5編</p> <p>第二章 二度の世界大戦と日本</p> <p>第二部 大正デモクラシーの時代</p> <p>1 大正デモクラシー</p> <p>2 社会運動の広がり</p> <p>3 都市化の進展と大衆文化</p> <p>第三部 世界恐慌と日本</p> <p>1 世界恐慌と各国の対応</p> <p>2 日本の恐慌と東アジア情勢</p> <p>3 日本の進路を変えた満州事変</p> <p>4 日中全面戦争と戦時体制</p>	<p>○世界のどのような流れを受けて国内でデモクラシーの風潮がでてきたのかをつかむ。同時にそれに対して政府がどう対処し、社会がどう変化していったかを理解する。</p> <p>○恐慌を起点になぜ日本は満州事変から戦争への道を突き進んでいったのかを考える。</p> <p>○戦争への道を進むに当たってどうして止められなかったのかを知り、戦時体制の構築の過程を理解する。</p>	<p>・大正デモクラシーとその社会的、政治的影響を確認する。</p> <p>・満州事変の流れとそこからの日中戦争から太平洋戦争までの流れを整理する。</p>
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞			ノート提出・課題への取り組み(30%)
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞			定期試験(35%)
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞			定期試験(35%)

【観点別評価】

1, ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。

- B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。
 C：補充できていない空欄が存在する。
 D：未提出

2. ワーク課題

課題内容	評価指標
明治の偉人履歴書ワーク (明治維新前後に日本の近代化に貢献した偉人について調べ学習を行い、履歴書を作成する)	<p>①履歴書プリント A：指定した条件に合致する書き込みをしており、絵図やレイアウトに創意工夫がみられる。 B：指定した条件に合致する書き込みをしているが、端的で不十分な内容である C：未提出、あるいは指定した条件を無視している。</p> <p>②発表メモ A：他者の発表をよく聞き、メモを取れている。 B：空欄の部分がある。 C：未提出</p> <p>③振り返り「明治日本の近代化に最も貢献したのは誰か、自分の考えを述べなさい」 A：発表内容を踏まえて振り返りに取り組み、説得力ある根拠を述べつつ、明治維新についての学びを振り返っている。 B：発表内容を無視して自分の考えを述べている C：未提出、あるいは人名のみ</p>

中学3年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月	第二部 大正デモクラシーの時代 1. 大正デモクラシー 2. 社会運動の広がり 3. 都市化の進展と大衆文化	○世界のどのような流れを受けて国内でデモクラシーの風潮ができたのかをつかむ。同時にそれに対して政府がどう対処し、社会がどう変化していったかを理解する。	・大正デモクラシーとその社会的、政治的影響を確認する。
5月	第三部 世界恐慌と日本 1. 世界恐慌と各国の反応 2. 日本の恐慌と東アジア情勢 3. 日本の進路を変えた満州事変 4. 日中全面戦争と戦時体制 第四部	○恐慌を起点になぜ日本は満州事変から戦争への道を突き進んでいったのかを考える。 ○戦争への道を進むに当たってどうして止められなかったのかを知り、戦時体制の構築の過程を理解する。	・満州事変の流れ、そこから日中戦争を経て太平洋戦争までの流れを整理する。 ・戦争の過程の中で民衆はどのように生き、戦時中を過ごしていたのかを確認する。

6 月	第二次世界大戦と日本 1. 第二次世界大戦のはじまり 2. アジア・太平洋での戦争 3. 戦時下の国民の生活 4. 第二次世界大戦の終結	○戦争で一体どんなことがおこり、日本にとってどれほど大きな影響があったのか、戦争がいかに悲惨であったかを知る。	
	第6編 現代の世界と日本 第一部 平和と民主化 1. 占領と改革の始まり 2. 平和で民主的な国家を目指して 3. 敗戦直後の社会と文化 4. 第二次世界大戦後の世界 5. 国際社会への復帰と55年体制	○戦後、どのように日本が制度を変えて国際社会へ復帰していったのかその道のりを知る。	・戦後の改革の全体像を把握し理解する。 ・なぜ冷戦が起こり、それが日本とどのような関係があるのか、東アジア情勢がどのように変化していったのか、整理する。
	第二部 冷戦下の世界と経済大国化する日本 1. 東西対立と緊張緩和 2. 冷戦下のアジアと日本 3. 高度経済成長 4. 経済大国となった日本	○国際社会の変化と現代に残るそのつながりを確認する。	
	第三部 グローバル化と日本の課題 1. 冷戦の終わりとグローバル化 2. グローバル化のなかの日本 3. これからの世界と日本の課題	○グローバル化と現代の諸課題を学び、「歴史総合」につなげていく。	・グローバル化の中どのような諸課題があるのか「問い」を立てながら考察していく。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
＜主体性・多様性・協働性＞			①：授業中のワークへの取り組み・授業への参加具合 (30%)
＜思考力・判断力・表現力＞			②：定期試験 (35%)
＜知識・技能＞			③：定期試験 (35%)

社会科シラバス 中学地理

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 地理	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間 × 2 年	第 1 ・ 第 2 学年	社会科 中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図(帝国書院)
学習の到達目標	<p>(1) 自立して学習に向かう探究心を持ち、積み重ねてきた知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者に伝え、より良い人間関係を築くことの出来る表現力を身につける。(自立 自存・寛容と共生)</p> <p>(2) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた地理的知識・情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。(Science)</p> <p>(3) 現代社会において大きな課題となっている環境問題や災害に対し、自然科学と社会科学の両面から幅広い視野を持って問題意識を深め、問題解決のために行動を起こせる力を養う。(Science)</p> <p>(4) 私たちとは異なる価値観に対する理解を深め、それらを尊重しながら、現在世界でおきている様々な問題を解決するために多種多様な人々と協調できる人間になる。(Global)</p> <p>(5) SDGs の「誰ひとり残さない」という精神を念頭に、世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養う。(Global)</p> <p>(6) 様々な学習活動を通じて得られた社会科学と自然科学の基礎的な知識を有機的に結びつけ、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。(Liberal Arts)</p> <p>(7) 様々な民族や宗教・文化を背景に持つ相手の立場に立って考える姿勢を大切にしてモラルを理解し、よりよい人間関係を築くための土台を身につける。(Liberal Arts)</p>		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
 D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

中学 1 年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
4 月	第 1 部 世界と日本の地域 構成 第 1 章 世界の姿 1 私たちの住む地球を眺 めて 2 いろいろな国の国名と 位置 3 緯度と経度 4 地球儀と世界地図の違 い	<第 1 部 第 1 章> 世界の地形、国土の広がり、時 差を理解する。 世界の広がり記載する地図や 地球儀、それぞれの長所と短所 を説明する。	教科書 帝国書院『社会科 中学生の地 理』 帝国書院『中学校社会科地図』 ○地図帳を使って世界を見渡す ことに親しみ、大陸と海洋、国 境の意味を理解していくこと で、世界へ視点を広げる。 ○生徒がよく知っている国を地 図上で把握し、さらに世界の広 がりを実感する。 ○緯度・経度を使って、気候の 違いや時差を理解する。 ○領土問題を知ること、国と 国との歴史や関係性を知る。
5 月	第 2 章 日本の姿 2 時差でとらえる日本の 位置 3 日本の領域とその特色 第 3 部 第 2 章 世界と比べた日本 の地域的特色 1 山がちな日本の地形 3 日本の気候	<第 1 部 第 2 章> 世界の中での日本の位置や、日 本の領域と領土をめぐる問題に ついて理解する。	 ○日本列島の広がり地形や気 候の特徴を理解する。
6 月	第 3 章 日本の諸地域 第 1 節 九州地方 1 九州地方の自然環境 2 火山とともにある九州 の人々の生活 3 自然を生かした九州地 方の農業 4 都市や産業の発展と自 然環境 5 南西諸島の自然と人々 の生活や産業	<第 3 章 第 1 節> 九州地方について、自然環境が 人々の生活や産業にどのような 影響を与えているかを理解す る。	 ○温暖な地域、火山との関わり から九州を掘り下げる。 ○日本の自然と災害の関係を理 解し、日常生活を見直す。 ○北九州工業地帯の衰退の理由 と新しい環境改善の動きにつな げたことを理解する。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞	①授業ノート提出 ①発表課題 （①は、3 観点合計で 3 分の 1）
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞	②定期試験（3 分の 1） ①発表課題
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞	③定期試験（3 分の 1） ①発表課題

【観点別評価】

1, ノート提出

- A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。
 B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。
 C：補充できていない空欄が存在する。
 D：未提出

2, 発表課題

地域の特徴（観光案内）について発表課題	<p>A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。</p> <p>B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。</p> <p>C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。</p>
日本国内に関連する新聞記事ワーク	<p>A：探究的な内容の新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明を表現したり、今後の学習を見据えた発展的な意見を述べている。</p> <p>B：現代の諸課題に関連した新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明をしようとする姿勢が読み取ることができ、指示した課題に取り組んでいる。</p> <p>C：他者にはわかりにくい説明であったり、指示した課題に取り組めていないなどといった、主体性を感じられない内容である。</p> <p>D：未提出</p>

中学2年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月	第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 1 アジア州の自然環境 2 アジア州の農業・文化と経済発展 3 経済成長を急速に遂げた中国 4 最も近い隣国、韓国	＜第1節＞ アジア州の自然環境を白地図プリントの作業を通じて理解させ、続いてアジア州の各地域を経済格差をテーマに理解させる。	『中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院） ＜第1節＞ アジア州では季節風の影響を強く受ける東アジア・東南アジア・南アジアの農業・生活、影響の少ない西アジア・中央アジアの農業・生活を理解する。 時事問題と絡めながら、工業化の発展や世界の中での枠割を知る。
5月	5 経済発展を目指す東南アジア 6 産業発展と人口増加が急速に進む南アジア 7 資源が豊富な中央アジア・西アジア		
6月	第6節 オセアニア州 1 オセアニア州の自然環境 2 移民の歴史と多文化社会への歩み 3 他地域と結び付いて発展する産業	＜第6節＞ グローバルキャリアフィールドワークを実施するオーストラリアと周辺の地域を事前に学び、異文化理解の成果に繋げる。	＜第6節＞ 南半球に位置するオーストラリアを中心とした国々の自然環境を理解する。
9月	第2節 ヨーロッパ州 1 ヨーロッパの自然環境 2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性 3 EUの成り立ちとその影響 4 ヨーロッパの農業とEUの影響 5 ヨーロッパの工業とEUの影響 6 EUが抱える課題	＜第2節＞ ヨーロッパの国々の魅力を調べていくことで、各々の個性を知る。 世界情勢が複雑化する中で、EUが今後向かう姿を予想してみる。	＜第2節＞世界情勢が複雑化する中でのEUの今後を創造してみる。 ヨーロッパの国々が個性をもちながらも、一つのまとまりとしてとらえている感覚を得る。 国調べを行いプレゼンテーションを行う。
10月			
11月	第3節 アフリカ州 1 アフリカ州の自然環境 2 アフリカの歴史と文化 3 特定の輸出品に頼るアフリカの経済 4 アフリカが抱える課題とその取り組み	＜第3節＞ アフリカ州の自然環境を白地図プリントの作業を通じて理解させ、続いて経済の実態や今後の課題や取り組みを歴史を通して理解させる。	＜第3節＞ なぜ貧困にあえぐ国々が多いのかをテーマに歴史や現状に目を向けさせ、その仕組みを理解することを中心とする。

1 月	第4節 北アメリカ州 1 北アメリカ州の自然環境 2 移民の歴史と多様な民族構成 3 大規模な農業と多様な農産物 4 世界をリードする工業 5 アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題	〈第4節〉 世界で存在感のある南北アメリカとヨーロッパの関係を捉える。 移民の歴史、農業については、北アメリカ州の中で南アメリカ州についても扱う。	〈第4節・第5節〉 日本と関係の深い国々や地域について調べ、プレゼンテーションを行う。
2 月	第5節 南アメリカ州 1 南アメリカ州の自然環境 4 ブラジルにみる開発と環境保全	〈第5節〉 熱帯雨林伐採に関する環境問題に取り組む。	

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。〈主体性・多様性・協働性〉	ノート提出 発表課題
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。〈思考力・判断力・表現力〉	定期試験 発表課題
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。〈知識・技能〉	定期試験 発表課題

【観点別評価】

1, ノート提出

- A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。
 B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。
 C：補充できていない空欄が存在する。
 D：未提出

2, 発表課題

課題内容	評価指標
アジア・オセアニア地域の課題について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。

	<p>C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。</p>
<p>アジア・オセアニア地域に関連する新聞記事ワーク</p>	<p>A：探究的な内容の新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明を表現したり、今後の学習を見据えた発展的な意見を述べていたりする。</p> <p>B：現代の諸課題に関連した新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明をしようとする姿勢が読み取ることができ、指示した課題に取り組んでいる。</p> <p>C：他者にわかりにくい説明であったり、指示した課題に取り組めていなかったりといった、主体性を感じられない内容である。</p> <p>D：未提出</p>
<p>ヨーロッパ地域の課題について発表課題</p>	<p>A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。</p> <p>B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。</p> <p>C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。</p>